

6) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 多様な生きがい感のある環境づくり

目的:生涯を通して、自分に合った社会参加ができ、生きがい感をもてるようになる

指標:生きがい感をもっている人の割合

① 目的

生涯を通して、心豊かに生活するためには、社会（家庭を含む）の中で自分の居場所が認知され、自分の希望や自分にあった活動ができることが重要であると考えます。

② 指標

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のはりや生きがいを持ち続ける人を増やすことを目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。（1つに○）

- 1 大変感じている 2 かなり感じている 3 ある程度感じている
4 あまり感じていない 5 ほとんど感じていない

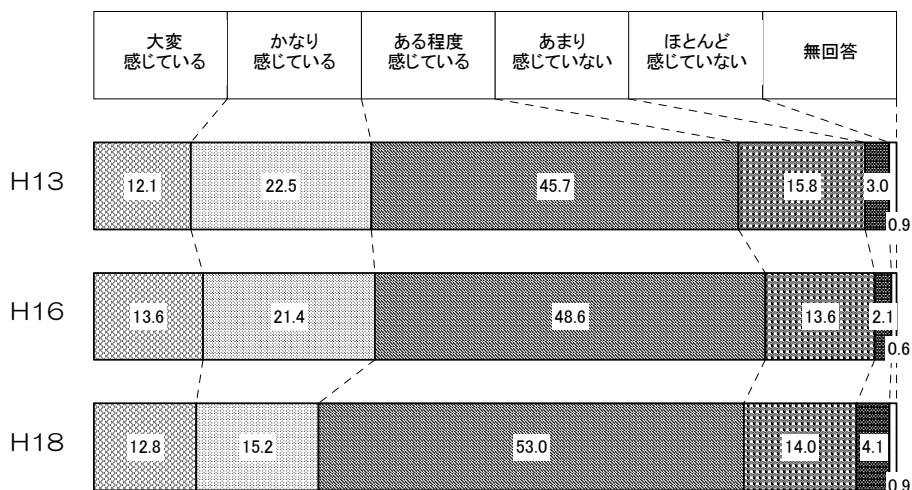
④ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度（目標値）
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.3%

⑤ 指標の分析

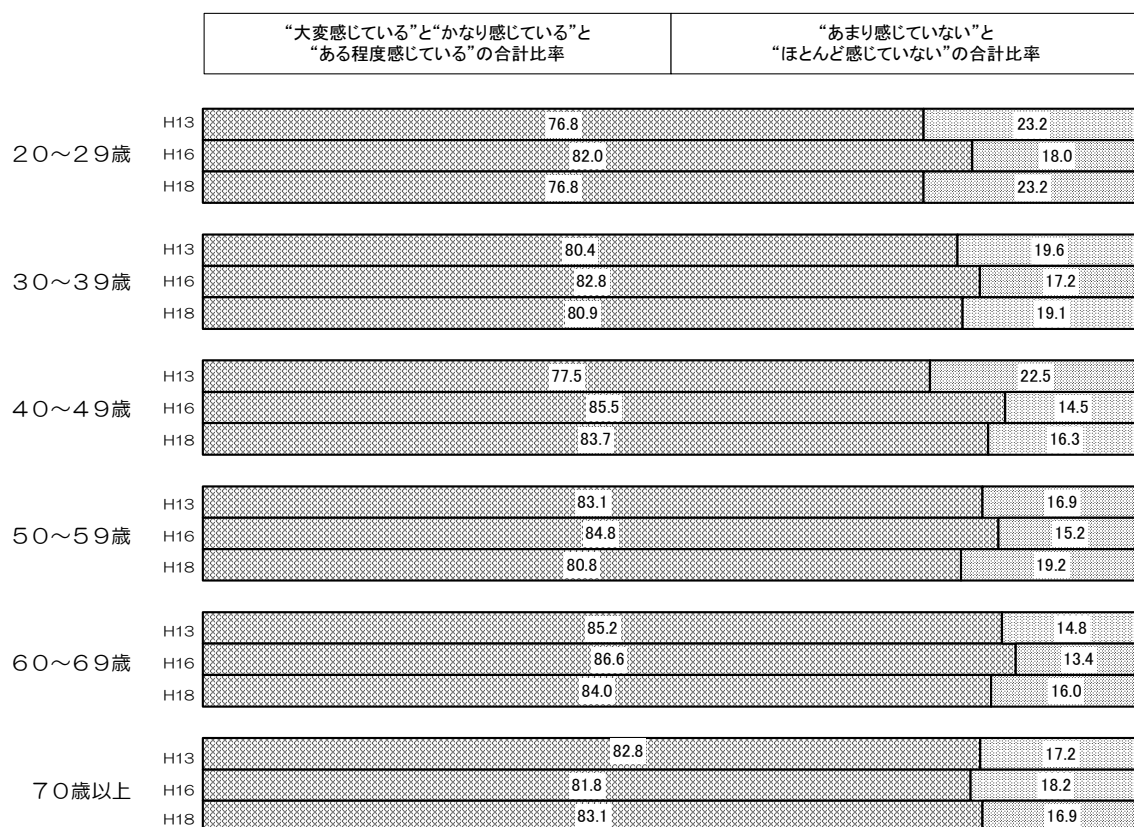
◆ 日頃、生きがいを感じる人は僅かに減少

生きがいを感じている人の割合は、平成16年度値に比べ2.6ポイント減少しているが、平成19年度の目標値は0.7ポイントと僅かながら上回っている。内訳をみると、“かなり感じている”が6ポイント強減少しているが、“ある程度感じている”は4ポイント強増加している。



次に、年齢別にみると、各年代ともに生きがい感を持っている人の割合が圧倒的に高い傾向に変わりはない。前回に比べて20歳代と50歳代で生きがい感を持つ人がやや減っている。

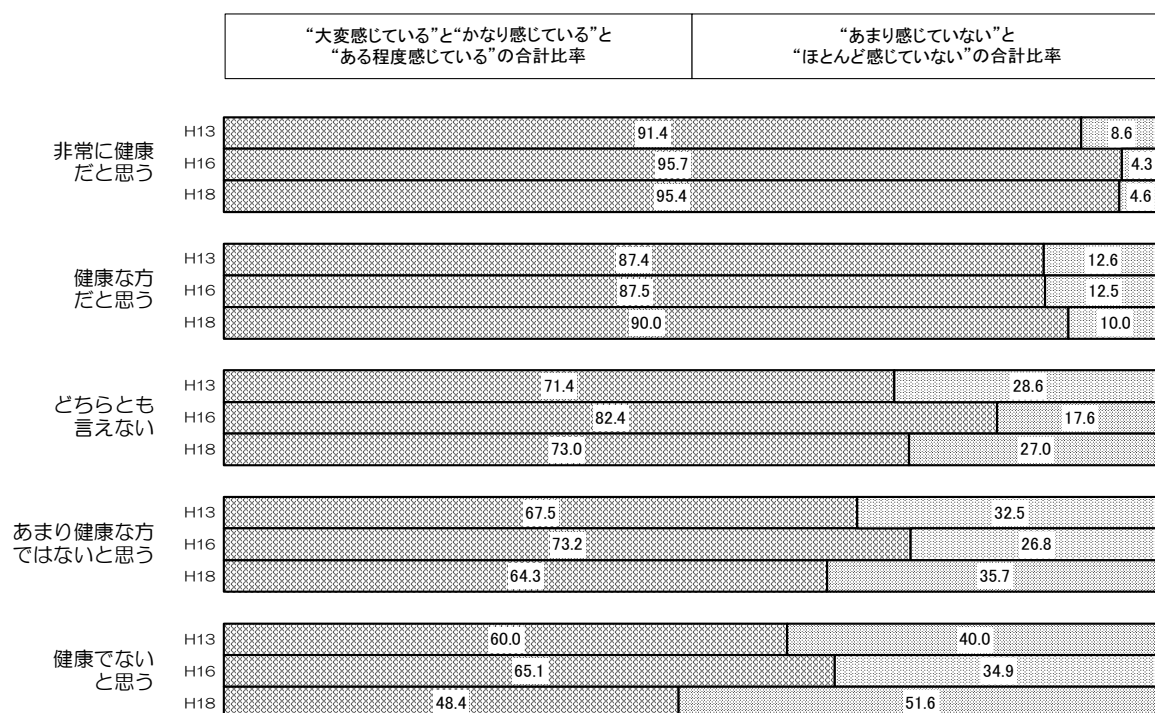
【年齢別生きがい感】



本人の健康感との関係を見ると、健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向は前回と同様であり、健康であることが、生きがいを感じることの要因の一つとして重要であるといえる。

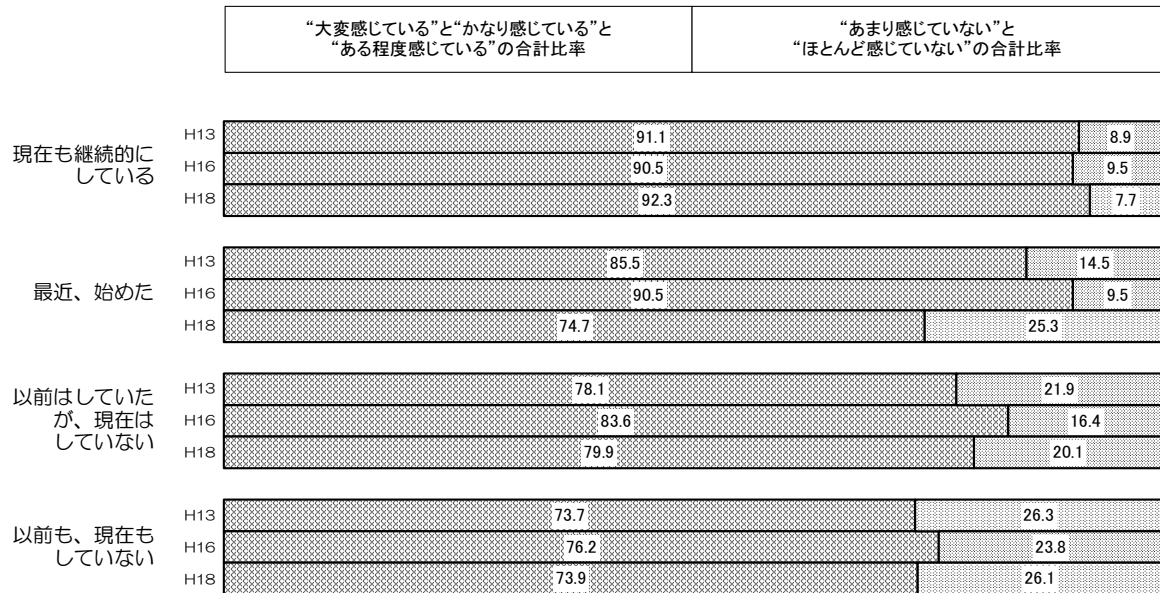
どちらとも言えない、あまり健康なほうではないと思う、健康でないと思うとしている人は、前回から生きがい感が 10ポイント前後の減少がみられる。

【本人の健康感別生きがい感】

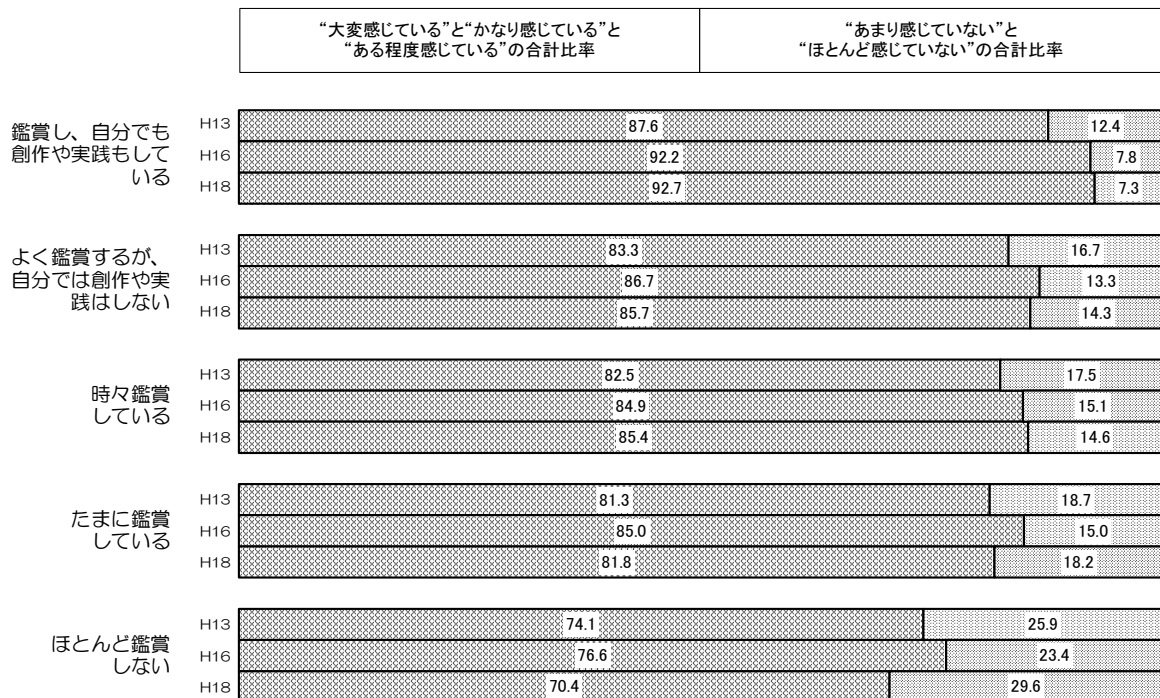


スポーツの実施状況との関係で見ると、継続的にスポーツを行っている人の生きがい感が高いものとなっている。また、芸術文化の実施状況との関係でも、創作や実践している人の生きがい感が高い。

【スポーツの実施状況別生きがい感】



【芸術文化の実施状況別生きがい感】



7) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 健康の維持・増進

目的:生涯を通して、健康に良いと思う行動や身近な人の健康に配慮ができ、病気や障害をもつことになっても、自分に合った健康生活が送れるようになる

指標:本人が健康であると思う人の割合

① 目的

すべての人が生涯を通してその持てる能力を発揮するために、健康はその前提となる重要なものです。自分の健康は自分で守り、つくり、身近な人の健康に配慮をすることが必要であり、本人の意思や努力にもかかわらず病気にかかったり、障害を持たざるを得なくなっても、病気や障害とうまく付き合い、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れるようにすることが大切です。

② 指標

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を増やしていくことを目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

あなたは今、健康だと思いますか。（1つに○）

- 1 非常に健康だと思う 2 健康な方だと思う 3 どちらとも言えない
4 あまり健康な方ではないと思う 5 健康でないと思う

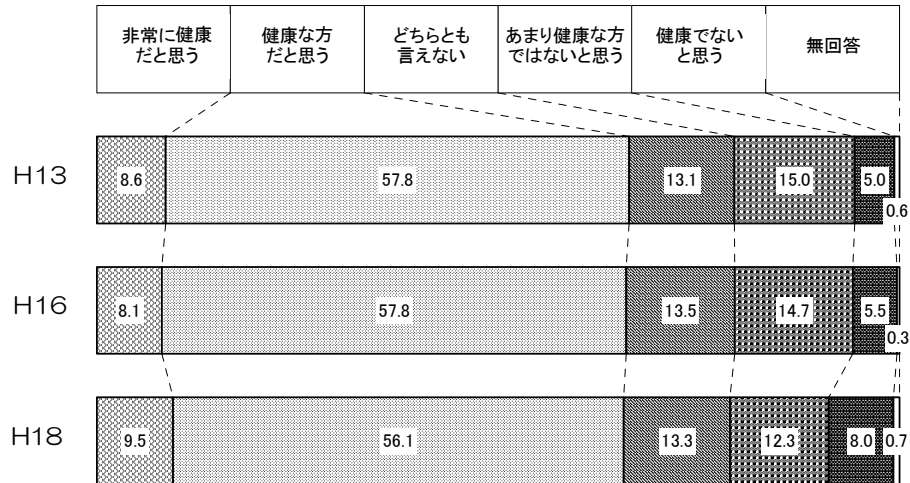
④ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度（目標値）
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	
健康な方だと思う	57.8%	57.8%	56.1%	
計	66.4%	65.9%	65.7%	67.1%

⑤ 指標の分析

◆ 「健康である」と思う人が前回同様多くを占める

健康であると思う人は市民の約3分の2を占めており、前回との差はみられない。ただし、平成19年度目標値は1.4ポイントと僅かながら下回っている。



性別でみると、女性の方が健康だと思うとする人がやや多くなっている。

【性別健康感】

	“非常に健康だと思う”と “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらとも言えない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う”と “健康でないと思う”の合計比率	
男性	H13	66.2	13.0	20.8
	H16	63.1	14.7	22.2
	H18	63.0	14.3	22.7
女性	H13	67.0	13.3	19.6
	H16	68.7	12.9	18.4
	H18	68.3	13.0	18.7

年齢別にみると、年齢層が上がるにつれ、健康であると思う人が徐々に減少する傾向が前回同様続いている。

【年齢別健康感】

		“非常に健康だと思う” “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらともいえない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う” “健康でないと思う”の合計比率
20～29歳	H13	72.4	12.9	14.7
	H16	71.2	13.7	15.1
	H18	68.9	9.8	21.3
30～39歳	H13	72.8	12.7	14.6
	H16	69.0	16.2	14.8
	H18	73.2	14.6	12.1
40～49歳	H13	65.7	16.7	17.5
	H16	68.3	13.1	18.6
	H18	67.6	13.0	19.4
50～59歳	H13	70.4	11.7	18.0
	H16	67.4	12.9	19.6
	H18	65.5	16.8	17.8
60～69歳	H13	62.6	13.1	24.2
	H16	63.8	15.0	21.3
	H18	64.6	11.8	23.6
70歳以上	H13	47.2	12.9	39.9
	H16	58.8	10.0	31.2
	H18	53.8	13.3	32.8

スポーツの実施状況との関係を見ると、現在スポーツをしている人の方が健康であると思う割合が高い傾向が前回と同様みられる。

【スポーツの実施状況別健康感】

		“非常に健康だと思う” “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらともいえない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う” “健康でないと思う”の合計比率
現在も継続的に している	H13	79.3	8.3	12.4
	H16	75.6	11.5	12.9
	H18	77.6	10.1	12.3
最近、始めた	H13	66.2	14.3	19.5
	H16	73.8	11.9	14.3
	H18	67.5	12.5	20.0
以前はしていたが、 現在はしていない	H13	64.2	14.3	21.5
	H16	62.3	15.3	22.5
	H18	61.9	14.8	23.3
以前も、現在も していない	H13	57.3	16.5	26.2
	H16	60.9	14.1	24.9
	H18	60.6	14.9	24.5

8) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 日常生活および緊急時の安全・安心性の向上

目的:生涯を通して、必要な時に必要度に応じて十分な医療、介護、保護、支援などのサービスが受けられ、生活する上での安心感がもてるようになる

指標:日常生活(心配事が起きた時を含む)に対するの安心感をもつ人の割合

① 目的

生涯を通してそれぞれのライフステージの中で、急病、事故による受傷、要介護状態(経済的な自立が困難になった場合を含む)、虐待、家庭内暴力への対応など日常生活におけるさまざまな不安や心配事を解消し、安心感を高めることが重要であると考えます。

② 指標

ここ数年の社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット(安全網)を確立し、生活する上での安心感の向上を目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いている。「個人・態度(認知)」

あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になることがあれば、(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他() | 14 特にない | |

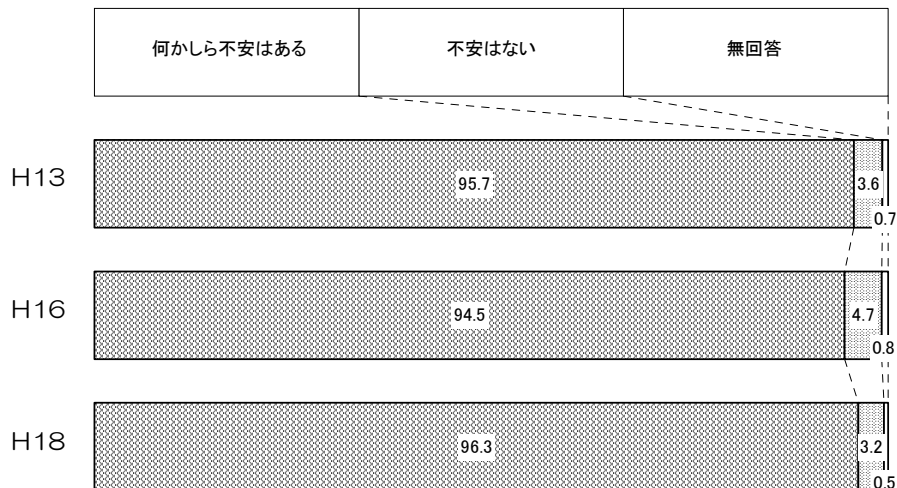
④ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度(目標値)
特にない	3.6%	4.7%	3.2%	4.2%

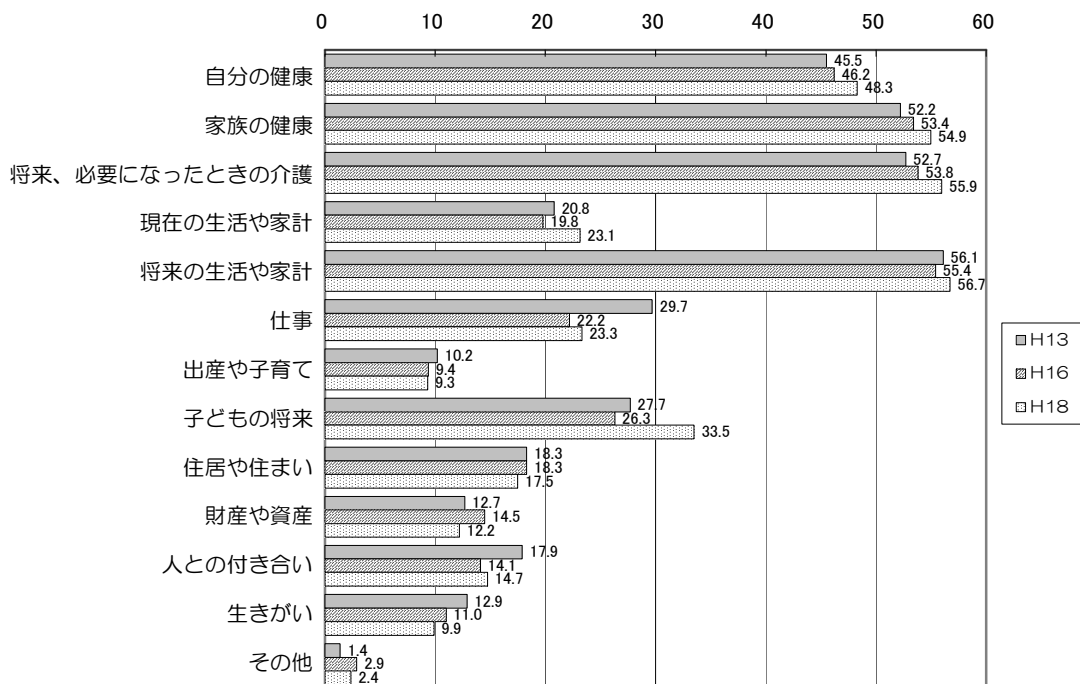
⑤ 指標の分析

◆ 特に不安を感じない人が僅かに減少

日常生活の中で、何らかの不安や心配事を感じている人がほとんどであり、前回との差はみられない。一方で、不安はないとする人は、ごく僅かではあるものの減少しており、平成 19 年度目標値を 1.0 ポイント下回っている。不安感という漠然とした意識の背景には健康や生活・家計、仕事、子どもなど、さまざまな要素がからんでくるが、不安の解消に向けて多様な取り組みを継続していく必要がある。

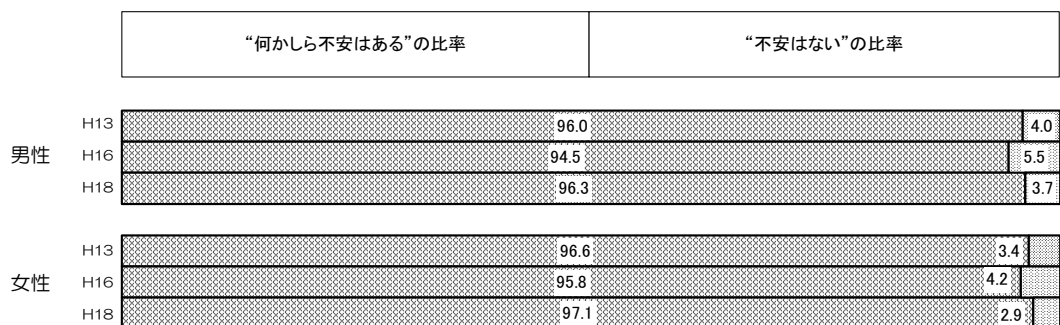


不安や心配事の内容としては、“将来の生活や家計”が最も多く、次いで“将来、必要になったときの介護”、“家族の健康”が半数を超えている。これらは前回と同様の順序となっており、経済的な面も含めた生活全般、健康や福祉の面などが、不安な点の多くを占めていることがわかる。また、“子どもの将来”を心配する人が前回より 7 ポイント増加している。

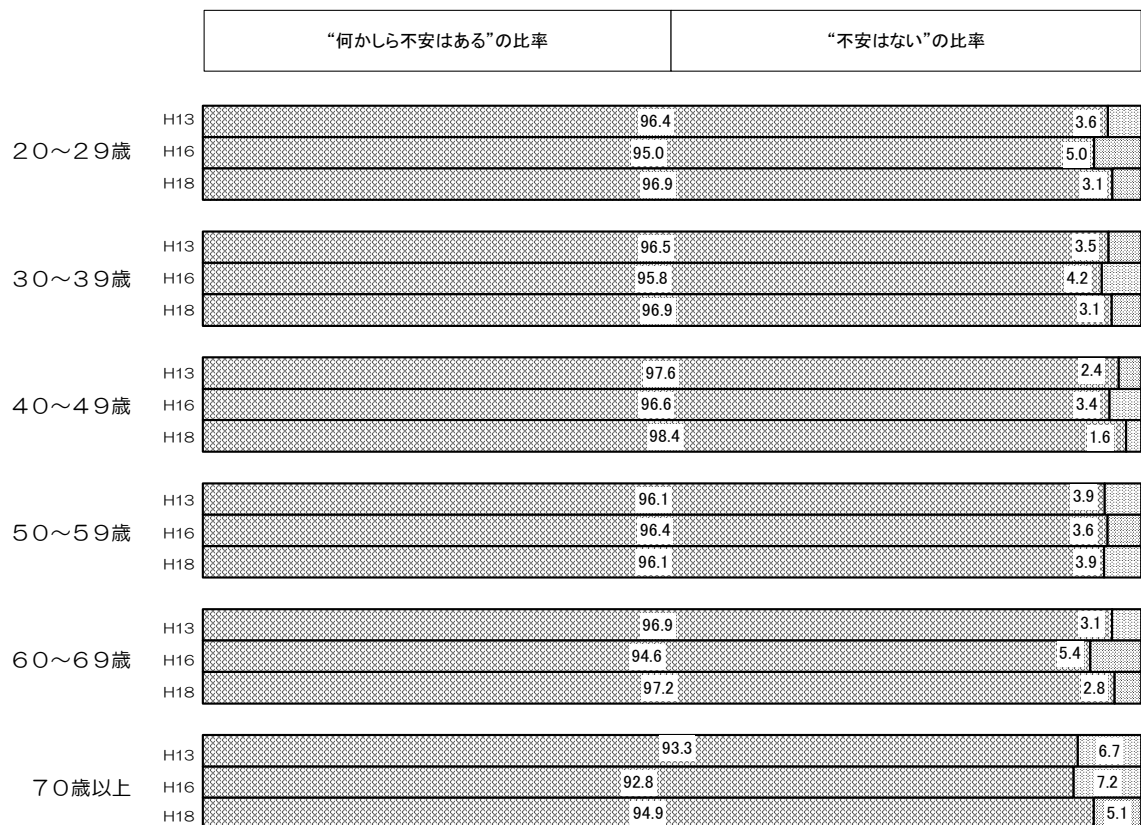


性別や年齢別にみた場合でも、多くの人が何らかの不安を持っている傾向に変わりはなく、前回と比べても同様の傾向となっている。

【性別安心感】



【年齢別安心感】



9) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第4項 福祉のための基盤整備

目的:生涯を通して、必要な時に健康福祉施設サービスが必要度に応じて利用できるようになる
指標:出産や子育てに不安や心配がない人の割合

① 目的

高齢者や障害者を含むすべての市民が、福祉の担い手であると同時に受け手であることを自覚し、相互に支えあい、施設サービスが必要となったとき、必要度に応じた施設利用ができるようにすることが重要と考えます。

② 指標

健康福祉サービスの中では、子育て支援施設の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで子育て支援施設の充足により子育てに満足している人を増やします。

③ 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得している。「個人・態度（認知）」

あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になることがあれば、(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他 () | 14 特になし | |

④ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度(目標値)
出産や子育てに不安や心配がない	89.8%	90.6%	90.6%	90.0%

⑤ 指標の分析

◆ 不安を感じない人が大多数を占める

出産や子育てについて、不安や心配を感じている人は全体の1割弱となっており、前回と同様の結果となっている。なお、不安や心配はないとする人は平成19年度目標値を0.6ポイントと僅かではあるが上回る値となっている。

